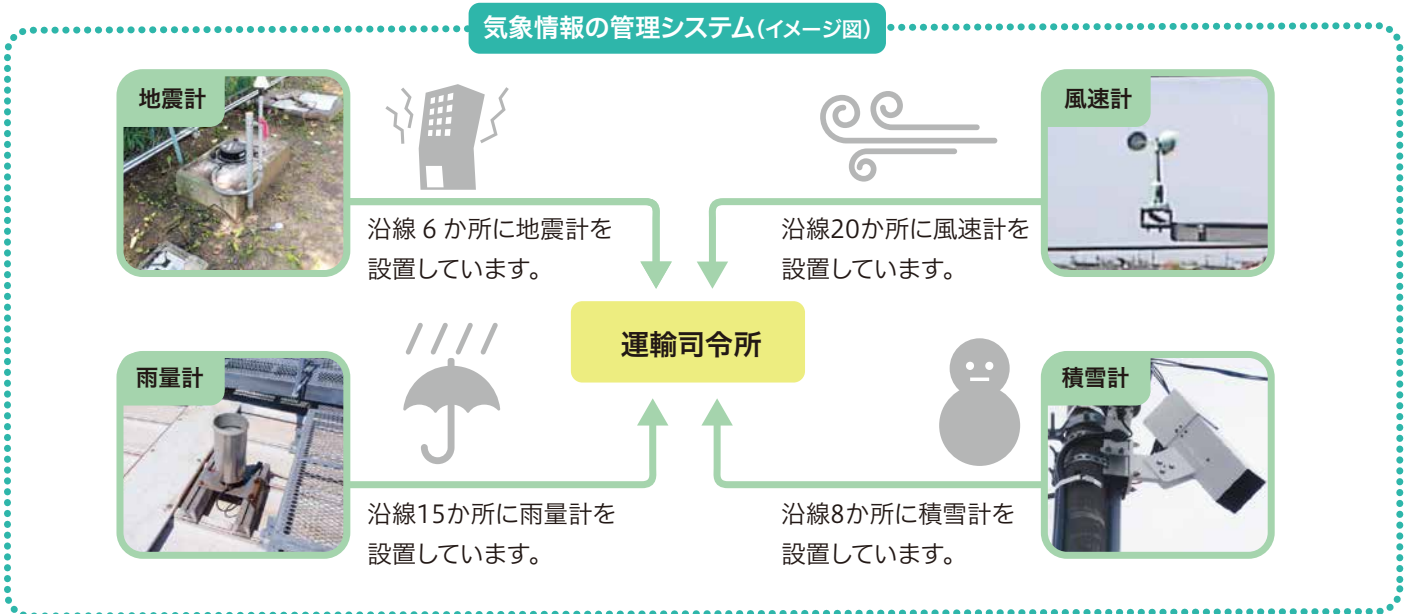


自然災害に備えた対策

輸送の安全を確保するため、日々気象情報等を収集し、自然災害に対するさまざまな対策を行っています。

● 気象情報システム

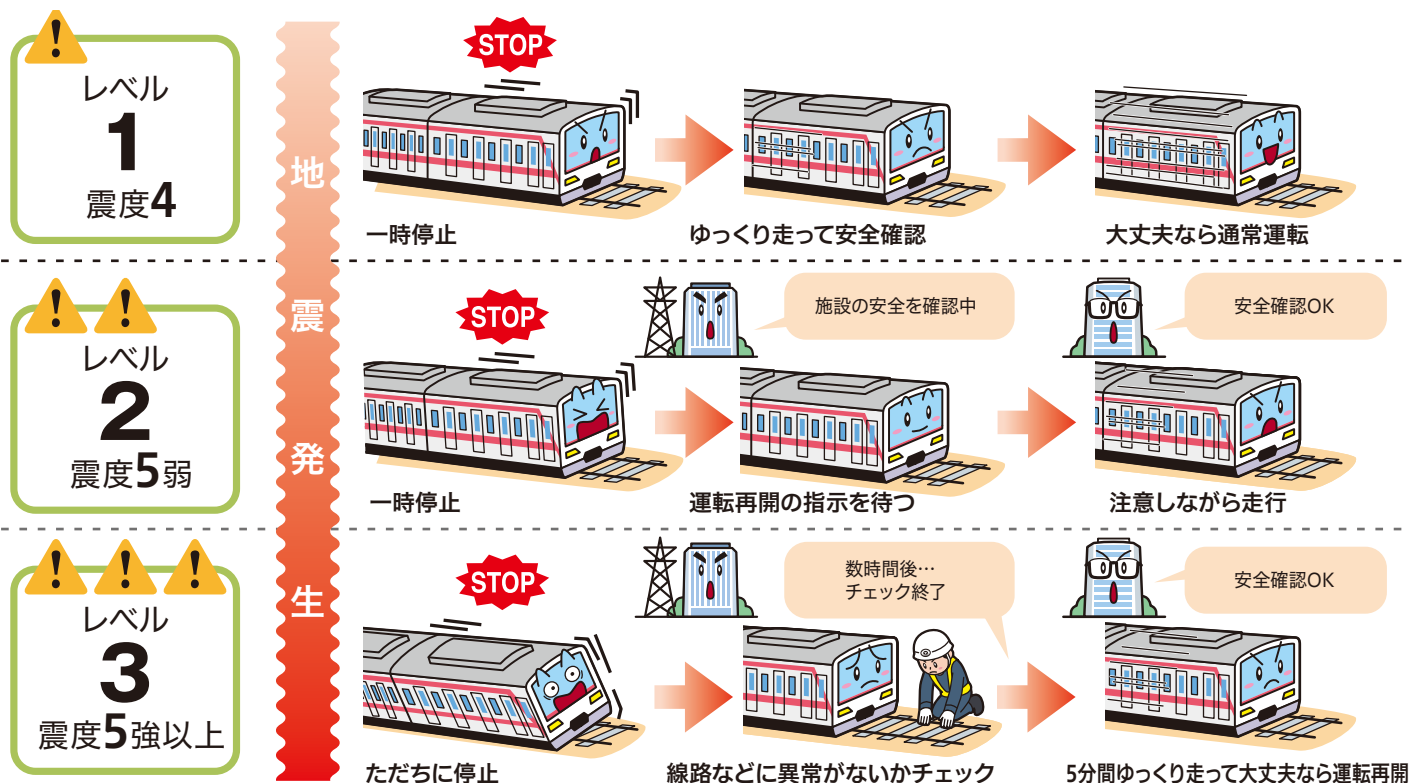
運輸司令所には、東急線沿線の気象情報等の集中監視システムがあります。東急線各所に設置した地震計や風速計、雨量計、積雪計の情報は運輸司令所に集約され、規程で定められた計測値により、運転中止を含む運転規制の指示や各部門へ警戒体制等を伝達します。



● 東急線の運行基準

大きな地震が来ることが予想された場合、東急線では列車の運転を止めることになっており、大規模地震が起きた場合は、下記の基準で運行します（震度1～3の地震が発生した場合には、通常通り運行します）。

▶ 大地震発生時の運行基準



● 地下区間の浸水対策

大雨時、屋外に設置している換気口から地下施設への浸水を防ぐために、換気口をかさ上げする対策を行っています。



対策前の換気口



対策後の換気口

● 法面補強による土砂災害対策

大雨時、土砂が線路内に流入しないように、線路脇の斜面をコンクリートなどで補強する対策を行っています。



対策前の斜面
(池上線洗足池駅～石川台駅)



対策後の斜面 (同区間)

● 高架橋、橋梁、トンネル、駅施設の耐震補強工事

当社所有の高架橋柱（約 6,300 本）の耐震補強については、耐震診断に一部誤りがあり、耐震補強の優先度が低いと判定した柱の一部に優先度が高い柱があることが判明いたしました。優先度が高い柱については、耐震補強を実施しており、2021 年度中に補強完了予定です。

そのほか、さらなる減災対策として災害時の復旧性を向上させる補強工事を進めてまいります。

※ 2018 年度の耐震省令の改正によって新たに追加されたロッキング橋脚を有する橋梁は、2022 年度までに補強完了予定です。



耐震補強工事実施中の長津田第一高架橋

● 構造物の老朽化対策

構築以来数十年を経過した構造物（高架橋、トンネルなど）に対し詳細調査を実施し、予防保全を目的とした長寿命化工事を順次行っています。



高架橋長寿命化対策前



高架橋長寿命化対策後